

令和 6 年度 第 2 回さいたま市地域公共交通協議会

# 参考資料 1

## ～都市と交通の未来像（詳細）～

- (1) 将来シナリオ
- (2) 生活シーンシナリオ
- (3) 年代別・職業別シナリオ
- (4) 全体像イメージ

2024.11.21

さいたま市 都市局 都市計画部 交通政策課

## （１）修正案について

### 前回の未来像からの修正ポイント

未来像案について対応方針・状況をカテゴリ別に整理して未来像をブラッシュアップ



| カテゴリ                    | 修正ポイント                                                                                                                                                                | イラスト | スクリプト |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------|
| ① 東日本の玄関口として選ばれる都市のイメージ | <ul style="list-style-type: none"> <li>「東日本の玄関口」としての広域視点、幹のモビリティ・モビリティハブを強調</li> <li>「選ばれる都市」としての魅力（アクセス性、豊富なコンテンツ、多様な生活様式と選択肢）を強調</li> </ul>                         | ○    | ○     |
| ② 地域コミュニティを育むイメージ       | <ul style="list-style-type: none"> <li>交流が生まれている様子、根のイメージ（人の繋がり、コミュニティ、ネットワーク）を追加</li> <li>交通結節点以外のモビリティハブの機能（買い物、交流拠点）を強調</li> </ul>                                 | ○    | ○     |
| ③ 新たなモビリティの発展のイメージ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>幹・枝・葉それぞれのエリアでモビリティハブが発展し、様々なモードが自動運転化され、モードの役割分担がされている想定</li> <li>それぞれの交通モードの利用に適したペルソナを想定、都心と郊外からのどちらからも発展する視点を追加</li> </ul> | ○    | ○     |
| ④ 新たな生活スタイル・社会変革のイメージ   | <ul style="list-style-type: none"> <li>クロスセクター効果（QOL向上、ウェルビーイング）がまちを育てる視点を追加</li> <li>市内と市外での2拠点居住、市内での2拠点居住の視点を追加</li> </ul>                                         | ○    | ○     |
| ⑤ モノの移動のイメージ            | <ul style="list-style-type: none"> <li>モビリティハブでの荷捌き、人流と物流の融合（空き車両活用）の視点を追加</li> <li>軽トラを利用した物流の視点を追加</li> </ul>                                                       | ○    | 2 ○   |

# 将来シナリオ

## ● 2050年さいたま市の住民の暮らしを取り巻く状況

### 生活・社会

- さいたま市の人口は、2035年頃まで微増し、そこから減少に転じているものの、**2050年まで人口規模は大きく変わっていない**
- 人口構成としては、3人に1人が高齢者になっているが、仕事や趣味、地域の活動に参加している人が多い。特に**公共交通の利便性が高いエリアでは、活発に行動している高齢者が多く健康寿命も延びている。**
- IoTデバイスがますます普及し、オンライン診療、ネットスーパー、テレワークなど家で出来ることが増えてい一方、移動にかかる時間が少なくなったため、友人とお茶を飲んだり、スポーツ観戦等をリアル空間で楽しむ人が増えている
- オンラインミーティングやネット上でのモノの取引によって、オンラインでのコミュニティ活動が増えている一方、サードプレイスでの地域コミュニティを持つ人も増え、**個人が自分にあったコミュニティを選択し、自由に参加することができている**
- 年齢・肩書・地域の枠組みにとらわれず住民・現場・若者が主体となり問題解決し、**連携・協力・共創を重視する社会へと徐々に変化していく**

### 交通・移動

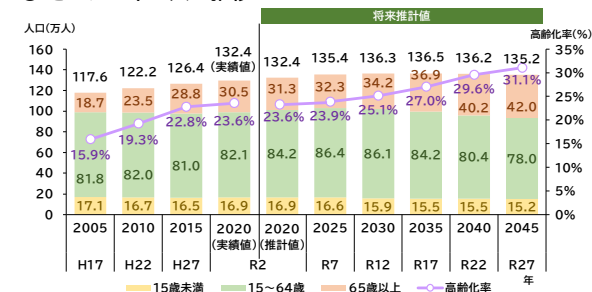
- 鉄道網は既存のサービス水準で2050年も維持されている**
- 都心や拠点に向かう路線バスは、幹線道路では自動運転によって高いサービス水準(運行頻度)で走行しており、所要時間、利用タイミング、歩行距離、時間信頼性、待機場所の環境、乗り心地、乗換回数、コストパフォーマンスの観点で**利便性・アクセス性が向上している**
- 駅やバス停が遠いエリアでは自動車を使っている人が多かったが、シェアリングや**デマンド・呼び出し型のグリーンスロー/パーソナルモビリティ**などを組み合わせて移動できるサービスが充実し、**自動車が無くとも安全・安心・便利に生活ができる**
- ピークの分散や、公共交通や健康に良い自転車を使う人が増え、**渋滞や満員電車・バスに巻き込まれる人が少なくなっている**
- 都市計画道路の整備や自転車通行空間の整備が進んでいて、自転車で快適に走行できるので、親子で連れ立てて緑豊かなサイクリングロードなどへ自転車でおでかけする人が多い
- シェアサイクルやカーシェアなどシェアリングサービスの利用が増え駅前にあった駐車場・駐輪場の土地利用が進んでいる**
- 駅前広場の整備や時間帯での自動車侵入規制、**モビリティハブを中心としたウォーカブルゾーンが整備されている**

### まち・環境

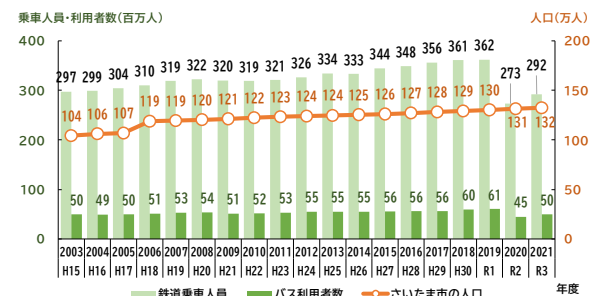
- さいたま市は、2つの都心と4つの副都心を中心に市内の都市機能が集まり、それらをつなぐ交通も多様に選択可能で一体的な都市になっている
- 拠点を中心に都市化が進む一方で、見沼んぼのような豊かな自然環境や氷川神社などの歴史文化財も豊富に存在し、都市的な生活をしながら自然や文化との共生ができる
- 公共交通が便利で、徒歩・自転車での環境も整っているため、**マイカー利用から公共交通等へ転換される人が増え、電気自動車などの次世代自動車も普及したことで、環境にやさしいまち**になっている
- 駅前にウォーカブルゾーンが整備されることにより、テラス席、移動屋台の利用スペースが生まれ、飲食等の出店の在り方が多様化し、**人が自然と集まるにぎわい空間が生まれている**
- ヒトだけでなくモノの輸送の効率化**やサービスの移動が実現し、公共交通、物流、小売りなど様々なサービスが連携し、より効率化されている
- 地域のお祭り、町内会、目的がなくても誰でも安心して使える**コミュニティスペースが整備されていて、人が自然と集まり、新しい活動が生まれている**



## ① さいたま市の人口推移



## ② 鉄道やバスの利用者数



## ③ 温室効果ガスの削減目標(第2次さいたま市環境基本計画)





keyword

# 職住近接

# 子育て

## 将来シナリオ

## 【市全体】

- 通信(リアルタイム性)技術の発展により様々な職種でのテレワークが広がり、大宮や浦和の様な都心だけでなく、市内すべての駅でリモートワーク環境が充実している
- 「さいたま都民」として東京に通う頻度が減り、職住近接で効率的に働き、家族との時間、自分の趣味の時間を確保できる人が多くなった
- パーソナルモビリティの中でリモートワークをしながら出勤、時間を有効活用
- 出勤の際はバスや鉄道を利用するが、隊列走行や自動運転、AI配車システムによってバスは利便性が向上し混雑は緩和されている

## 【都心部】

- 広域的な交通アクセスにより多様な交流が生まれビジネスチャンスが広がる

## 【郊外部】

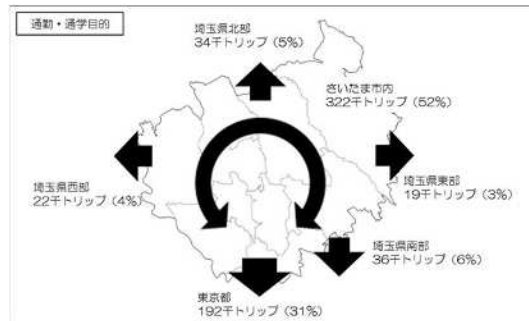
- 自宅からモビリティハブを経由して都心や主要駅まで移動、自動運転化されたモビリティサービスを利用
- 自動車を所有する方もいるが、通勤には利用しない

## 兆候・見通し

- 2018年時点では、東京方面に通勤する市民が3割程度存在
- 埼玉県は通勤にかかる平均所要時間が全国で2番目に長い【総務省データ】
- 市民の通勤環境に対する意識として、鉄道の車内混雑への不満が高い【市民意識調査】
- アンケート結果からわかること
- 近年では、生活様式の変化や通信(リアルタイム性)技術の発達などの影響を受け、テレワークが浸透
- AIの発展や遠隔操作技術の発展で消滅する職業がでてくる、頭脳労働の割合が増加
- 健康寿命の延伸によって定年の年齢が引き上げられている

## 移動のデータ

## ① 通勤・通学目的の移動



資料:第6回 東京都市圏パーソントリップ調査

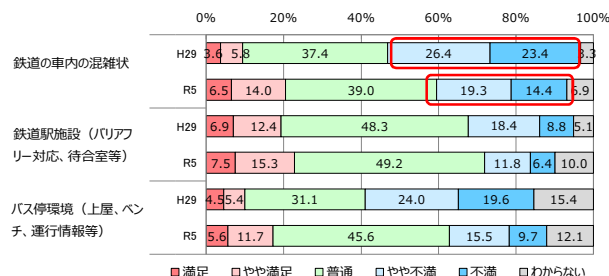
## ② 通勤・通学時間が長い!?ランキング(R3年)

|      |      |      |
|------|------|------|
| 1位   | 神奈川県 | 100分 |
| 2位   | 千葉県  | 95分  |
| 2位   | 東京都  | 95分  |
| 4位   | 埼玉県  | 94分  |
| 5位   | 奈良県  | 88分  |
| ...  |      |      |
| 47位  | 宮崎県  | 56分  |
| 全国平均 |      | 79分  |

資料:総務省統計局「社会生活基本調査から分かる都道府県ランキング」

## 通勤環境のデータ

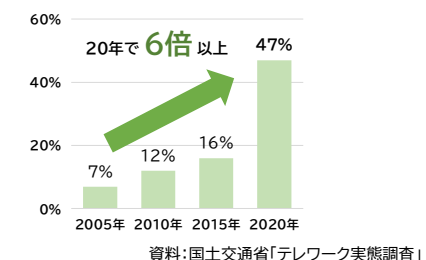
## ③ 通勤・通学目的の移動



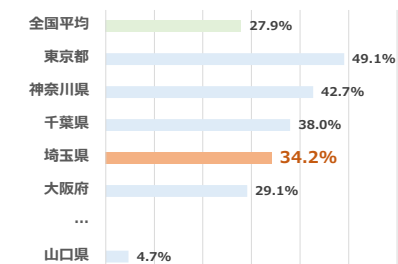
資料:インターネットアンケートによる市民意識調査(R5.12月実施)

## 働き方のデータ

## ④ テレワーク導入率:全国



## ⑤ 都道府県別個人のテレワーク実施率





keyword

# 職住近接

# 子育て

## 将来シナリオ

## 【市全体】

- シェアモビリティなど複数の交通手段が集まる場所(モビリティ・ハブ)が整備されているので乗換の抵抗感がなくなった
- お出かけする際には、個人の目的や状況、天候、価値観などに応じて複数の移動手段やルートの中から選択することが出来るようになり、運転免許を返納する方が増えている
- 地域経済循環への意識が変わり、地域通貨を使う方が増えている

## 【都心部】

- パブリックスペースが整備され、まちなかに滞在する人が増えている
- 店舗の在り方が変化し、小売り機能の空間が宅配サービス等の輸送拠点も兼ねている

## 【郊外部】

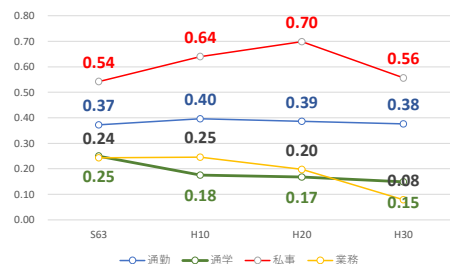
- 移動販売等の発達により、最寄りのモビリティハブで生活に必要な物品の購入ができる

## 兆候・見通し

- 2018年時点において、さいたま市における私事目的による外出が減少
- ECなどネットやwebにより買い物をしている人が増加
- PT調査の将来予測において、ネット通販等が拡大したシナリオではさらに外出が減少する見込み【PTデータ】
- アンケート結果からわかること
- 高齢者のスマートフォン利用者が増加
- デジタルネイティブ世代の出現、デジタル空間を介したサービスが増加

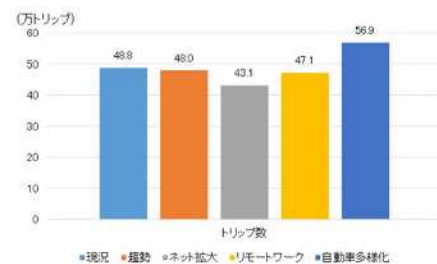
## 私事移動のデータ

## ① 目的別一人当たりトリップ数の推移



資料:第6回 東京都市圏パーソントリップ調査

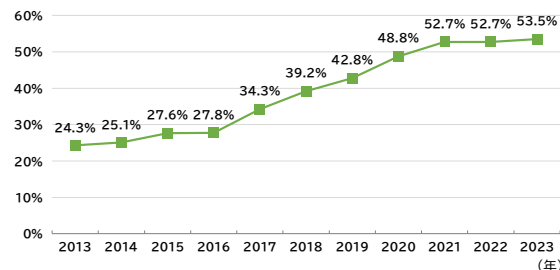
## ② 東京都市圏PTの将来シナリオ別トリップ数の予測



資料:第6回 東京都市圏パーソントリップ調査

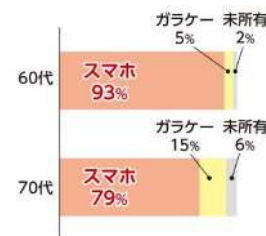
## デジタル普及のデータ

## ③ ネットショッピング利用世帯の割合の推移:全国



資料:家計消費状況調査(総務省)

## ④ 高齢者のスマートフォン普及率:全国



資料:NTTドコモモバイル社会研究所「研究レポート2023.3.27」

## 求める暮らしのデータ

## ⑤ 新たな交通手段



keyword

# 職住近接

# 子育て

## 将来シナリオ

## 【市全体】

- 都心・副都心を中心にウォーカブルな空間整備が進み、**まちで過ごす時間が増えている**
- 東日本の玄関口としてのアクセス性の良さにより、2拠点居住等、**多様なライフスタイルを支える都市として選ばれ、多様な交流が生まれている**
- **多様な交通手段を組み合わせる移動**することが出来るので、まちなかだけでなく、スポーツ施設や大きな公園など**多様な場所で活動する人**が増えている
- 移動環境の向上によって活動空間が拡大している
- **バーチャル空間とリアル空間が融合したコンテンツによる楽しみ方が増え、そのコミュニティも多く生まれている**

## 【都心部】

- 様々な商業施設、体験・コミュニティの場としての施設が集まり、快適な駅前広場や道路空間再配分によって整備された広い歩道や広場空間などネットワーク化されているため、**歩くことを楽しむ高齢者やまちなかで遊ぶ子供が多くなっている**

## 【郊外部】

- **遊び道具・施設、娯楽のためのフード・ドリンク、コンテンツのモビリティがハブにある**
- さらなるコンテンツを求めてモビリティハブから路線バスや鉄道に乗り継いでまちなかに遊びに行くこともできる

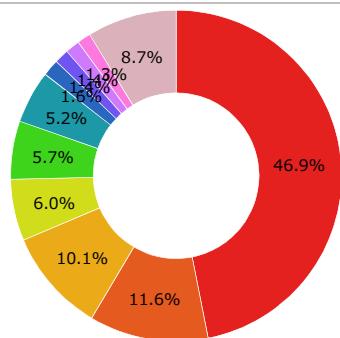
## 兆候・見通し

- さいたま市では、国際的なコンベンションセンターや大型スポーツ施設などの都市型の施設が充実
- 浦和まつりや花火大会、プロサッカー、バスケットチームチームを要するほか、ツール・ド・フランス、さいたまクリテリウムなどのスポーツイベントなど、年間を通じて多様なイベントが充実
- 近年は、自然や地域で交流や活動を楽しむため、二地域居住を志向する方が増加
- 公園や見沼たんぼなどの豊かな自然、氷川参道や岩槻宿などの歴史と文化に触れられる、多様な観光資源が存在
- 新型コロナウイルス拡大前までは、市内を訪れる観光客数が増加傾向
- ARを活用したゲームなどのコンテンツが流行している



## 市内の魅力のデータ

休日14時の指定地域滞在人口の  
居住都道府県別割合（日本人）



- 1位 東京都(32,360人)
- 2位 千葉県(8,027人)
- 3位 神奈川県(6,993人)
- 4位 栃木県(4,142人)
- 5位 茨城県(3,921人)
- 6位 群馬県(3,555人)
- 7位 愛知県(1,117人)
- 8位 大阪府(979人)
- 9位 福島県(962人)
- 10位 長野県(916人)
- その他(6,034人)

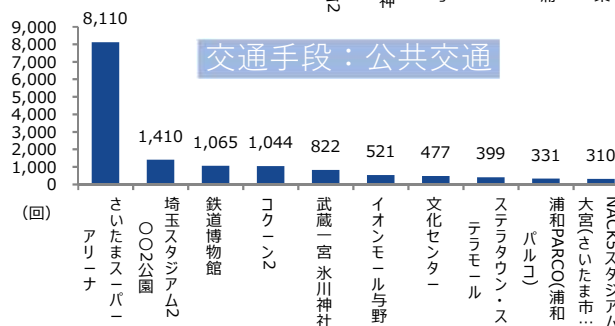
出典：株式会社NTTドコモ  
株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計」

## 観光施設等を目的地とした検索回数ランキング

## 交通手段：自動車



## 交通手段：公共交通



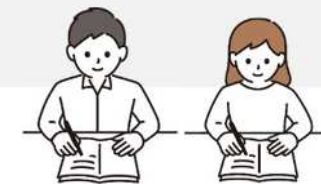
出典：株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」



資料：国土交通省「まちなかウォーカブル推進プログラム」



資料：全国二地域居住等促進協議会ホームページ



# 子育て

- 若年層だけでなく社会人や高齢の方もモビリティハブや地域コミュニティのサロンでの学習機会がある

- 地域が中心になってアイデアを出し合い、塾や習い事の帰りの子供が使えるように乗合タクシーの運行時間が変更されるなど、地域交通を上手く使い、親の送迎負担が減った地域が増えている

- さいたま市は、2024年の全国学力・学習状況調査で、中3の国語、数学、英語の全3教科で全国20政令市のトップなど、学力水準が高い
- 市街化区域内ではほとんどが徒歩圏で子育て施設を利用できる環境にある
- 若年代や女性で自転車が多く使われている
- 自転車関連の交通事故が多く発生している
- アクセシビリティの問題が進学先の決定に大きく影響している
- 通学時の公共交通の遅延や乗り心地に関する不満が多い
- 多くの小学校で学習ツールとしてタブレットが配布されている

## 子育て環境のデータ

令和5年度全国学力・学習状況調査（小学校）

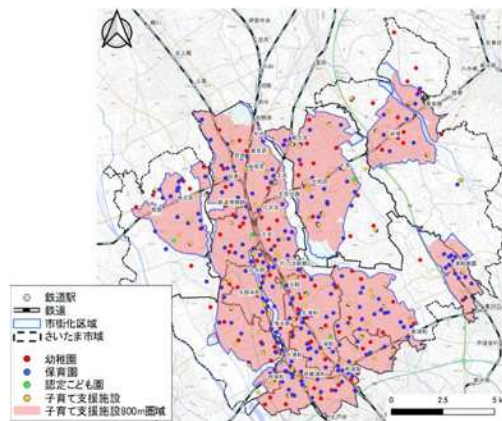
国語 < 14問 > | 算数 < 16問 >

■ 全国（国公立） ■ 全国（公立） ■ さいたま市

■ 仙台市 ■ 横浜市 ■ 新潟市 ■ 名古屋市 ■ 堺市 ■ 広島市 ■ 熊本市

■ 川崎市 ■ 静岡市 ■ 京都市 ■ 神戸市 ■ 北九州市

■ 札幌市 ■ 千葉市 ■ 相模原市 ■ 浜松市 ■ 大阪市 ■ 岡山市 ■ 福岡市



## （１）修正案について

### 改善ポイント：年代別スクリプト

いただいたご意見を基に市民視点での2050年の生活をブラッシュアップ、リタイア後の地域貢献を追加



市内全体



幼稚園の後は英語の習い事に行き、その後公園で遊ぼう！移動は見守り付きのこどもバスがあるから安心！自動運転はどうやって動いているのかな？「ヌウ」が運転しているの？

幼児

さいたま市は都内を含めた近隣市町にもアクセスが良いから、一生懸命勉強して、有名進学校に進学するぞ！移動時間もモビリティの中で勉強したり、塾のリモート講座を視聴したりして効率的に勉強しよう！

大宮



学生



浦和美園



近くにモビリティハブがあるし、買い物や駅までのアクセス便利だな。通勤の時もすぐに次のバスが来るから快適かつ遅刻しない。今週は浦和レッズの試合があるから近くのモビリティハブまではバスで、そのあと電動キックボードでスタジアムまで行って、近くのショッピングモールで買い物してよう！

若年

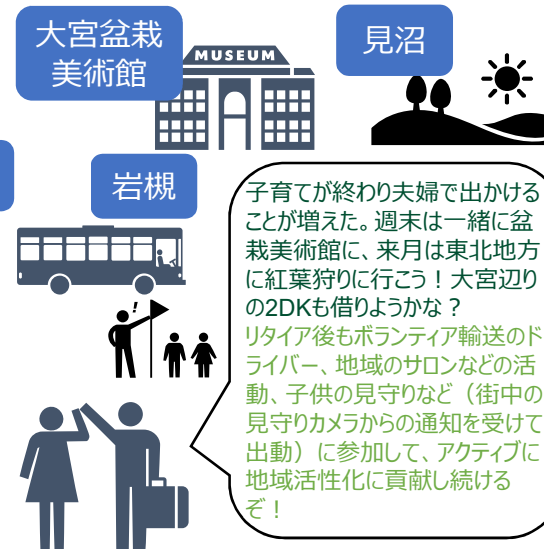


大宮

居住誘導区域

憧れの一都心のマンションに加えて郊外に軒家を購入！市内で2拠点居住が実現。みんなでお出かけするために自家用車も購入、でも普段は公共交通が便利だね。休日は近くの川沿いの公園で遊んだり、駅前広場のイベントやマルシェに参加しよう！

ファミリー



大宮盆栽美術館

見沼

岩槻

子育てが終わり夫婦で出かけることが増えた。週末は一緒に盆栽美術館に、来月は東北地方に紅葉狩りに行こう！大宮辺りの2DKも借りようかな？リタイア後もボランティア輸送のドライバー、地域のサロンなどの活動、子供の見守りなど（街中の見守りカメラからの通知を受けて出動）に参加して、アクティブに地域活性化に貢献し続けるぞ！

ミドル



東京

大宮

高齢になったから家を子供に譲ってまた都心部に引っ越したけど、やっぱり歩いてどこにでも行けるから便利！今週末は息子家族と遊園地に行く約束、近くのモビリティハブで待ち合わせして、久しぶりの高速バス。あと今から買い物にも行きたいからグリーンスローモビリティを呼び出さなきゃ。公共交通は徒歩とセットだから健康づくりにも良いよね。

高齢者

## (1) 修正案について

### 改善ポイント：職業別スクリプト

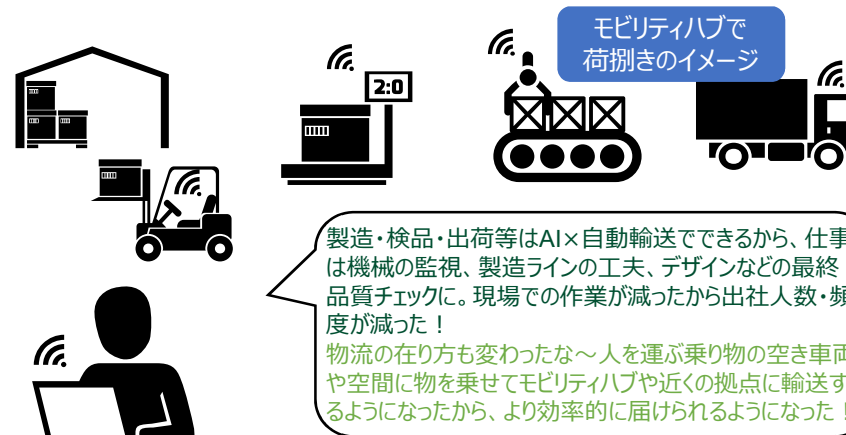
いただいたご意見を基に2050年の生活を職業別に整理、サービス業と学生は来訪者の視点を追加

リモート対応が増えて毎日出勤ではなくなったけど、出勤が必要なときの負担も全然ない！主要駅まで鉄道で行けば、その日の混雑状況・天気・気分に合わせてアクティブモビリティかピストン運行バスかを選んで楽に出勤できる。自動運転だから遅延の心配もなく、時間を有効活用できる。退勤後はウォーカブルゾーンに寄り道して少し遊んで帰れる。  
アクセスも良くていい街だな～  
さいたま市内との2拠点居住しようかな～

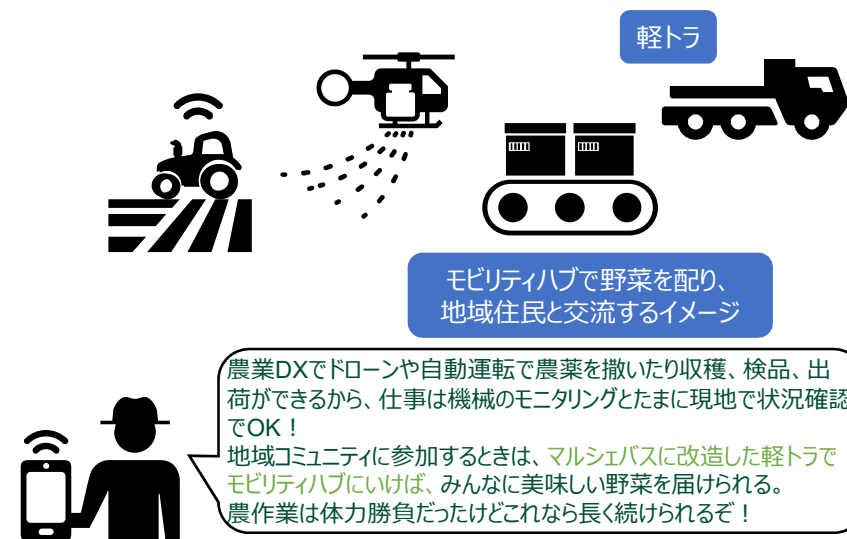
ウォーカブルゾーン

2拠点を رفتり来たりするイメージ

サービス業



製造業



農業



市外から通学する学生

## （１）修正案について

### 都市と交通の未来像（全体イメージ）

#### 2050年BON-SAITAMAが目指す姿

##### 【基本的な考え方】

- ◆ 幹となる鉄道、枝となるバス路線、葉となる地域交通からなる幹枝葉の交通ネットワーク
- ◆ 幹枝葉のそれぞれの交通をつなぎ、人々の交流を生むモビリティハブ
- ◆ 幹枝葉を、みんなでつくり、守り、育む（盆栽のように手を加え育てる）
- ◆ 充実した交通網と都市としての魅力が作り出す豊富な暮らしの選択肢
- ◆ 交通からまちの魅力を高めることで実現する、ウォーカブルな都市空間

##### 【幹】周辺都市と繋がる、選ばれる都市の幹

- ◆ “東日本の玄関口”として、都市間移動のスピード向上
- ◆ 幹で繋がる都市が増加
- ◆ 快適な通勤・通学、来訪者の移動を支える

##### 【枝】市民のおでかけ需要を支える枝

- ◆ 都心・副都心へのアクセシビリティ向上
- ◆ 時間を気にしないで乗れる快適なバス
  - ・ 自動運転や隊列走行などの技術革新により高い運行頻度

##### 【葉】地域の暮らしを支える葉

- ◆ 地域の生活に必要な移動需要に応えるモビリティ
- ◆ 共創・共助などにより、複数の交通モードが選べる

##### 【根】コミュニティで支え合い、まちを育てる

- ◆ 人のつながりを生む移動・空間
  - ・ モビリティハブで繋がるコミュニティ
  - ・ 地域の支え合いで生まれるウェルビーイングなコミュニケーション
  - ・ 子どもも楽しいウォーカブルな空間

